

会 議 録

会議の名称	第5回茨木市地域エネルギービジョン策定委員会
開催日時	平成23年1月24日(月) 午後3時開会 ・ 午後5時閉会
開催場所	茨木市役所 南館3階防災会議室
委員長	玉井 昌宏
出席者	磯崎 強志、大石 ひとみ、加藤 浩幸、兼森 軍二、黒川 裕之、 鈴木 眞由美、玉井 昌宏、西島 貞夫、藤田 紫、村瀬 径介、 山口 容平 (11人)
欠席者	今堀 洋子 (1人)
オブザーバー	武田 美奈子 (1人)
傍聴人	7人
事務局	島本環境政策課長、松本環境政策課長代理兼政策係長、井澤職員、 畑中第2計画部長、中川研究員、井筒客員研究員(株)地域計画建築 研究所大阪事務所) (6人)
議題(案件)	1 議題 (1) 茨木市地域エネルギービジョン(最終案)について 2 その他 (1) 第6回策定委員会の開催日時について
配布資料	1 茨木市地域エネルギービジョン(最終案) 2 茨木市地域エネルギービジョン概要版(最終案)

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	開 会
委 員 長	本日は、パブリックコメントを受けての修正報告と最後の確認をしたい。
	1 議事
	(1) 茨木市地域エネルギービジョン最終案について
	・ 第4回以降の変更点について説明
	・ 質疑応答
委 員 長	前回、バイオマスを重点プロジェクトに入れるとなると必ず実施しなければならないので、外してはということだった。今回、重点プロジェクトから外した途端、可能性が無いという記述になっている。可能性の有無については、もう少し検討して判断したほうがよいのではないだろうか。
事 務 局	利用可能量を判断する際、現段階では熱の大きな需要が無いため、そのような記述にしている。今後、可能性が出てくることもあるので、記述については検討する。
委 員 長	P.56、マイカー通勤の抑制についてだが、市内へ通勤してくる方への抑制だったと思うが、市内から市外へ出られる方のマイカー通勤を抑制する方が、より良いのではないか。
事 務 局	具体的に取り組んでいくイメージとして、まず始めに市内への通勤を挙げている。これは1つの例であって、今後新たな取り組みも検討する。
委 員 長	5年間で重点プロジェクトは終わるという意味か。
事 務 局	継続するものもあるし、そこから広がっていく施策もある。波及効果も考えられる。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員 長	波及効果というのはどういうものがあるのか。
事 務 局	例えば、市の施設に新エネ、省エネを導入した際に、市民へ導入を促すような取り組みなどが挙げられる。
委員 長	市民の方がP.57の図を見た時に、この図は分かりづらいのではないかと。意味が分かるような図への変更は可能か。 プロジェクト4について。交通関連のことを検討する際、自転車やバスなど公共交通との関係があるので、もし事務局の方で検討しているようなことがあれば教えてほしい。
事 務 局	具体的には特に無い。電気自動車を市で導入することも検討すべきことではある。具体的な検討が必要ではあるのだが、そこまで話は進んでいない。
委員 長	前回、環境教育が重要であるという意見もあったが、あまり反映されていないようにも見受けられるが、いかがか。
事 務 局	今回のビジョンでは、エネルギーを効率的に使うという観点でのプロジェクトを列挙している。環境教育については、全てのプロジェクトに含まれていると考えているため、個別には取り上げていない。
D 委 員	今の考えについて、文章中に記載された方が良い。でなければ、市民には分からない。P.50の考え方のところに、環境教育の文言を入れ込むだけでも意味があるのではないだろうか。
G 委 員	P.57の図について、私も見た時は分からなかったが、よく見ると分かる。説明文があればより分かるし、波及効果の線が5本でなく6本であれば、分かりやすいのではないだろうか。 パブコメに関しては、個人の方への個別回答をするのか。
事 務 局	個別回答ではなく、ビジョン作成の時期をめぐりに公表する。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
F 委 員	概要版の使い方はどういうイメージか。
事 務 局	概要版は、広く市民の方へ知っていただくため、持ち帰っていただくような配布資料と考えている。
F 委 員	ヒートポンプのイラストは説明文がないと分かりづらい。分かりやすいものが必要ではないだろうか。
事 務 局	より分かりやすく努力したい。
委 員 長	概要版にしては、情報量が多いかもしれない。
B 委 員	P.36の新エネルギーの説明について、太陽エネルギーから温度差エネルギーまで色々あり、文章化されている。市の特性からは、太陽エネルギーが有望である。そうであれば、さらにインパクトを持たせるために、概要版では全ての写真を掲載するのではなく、有望なものに絞って掲載するなど分かりやすい表現にした方が良いのではないか。
F 委 員	参考というのが概要版のP.1に来ているが、後ろの方へ持って行ってはどうだろうか。
事 務 局	レイアウトの関係もあるが、見せ方は検討したい。
J 委 員	どれくらいエネルギー量を減らしたいのか。TJでは分からないのではないだろうか。何%減らすなどの表記にしないと、分からないのではないか。 本ビジョンの位置づけの説明がよく分からないので、分かりやすい記述をお願いしたい。概要版で、温暖化対策実行計画の話があるが、ビジョンの下に位置付けられているように見えてしまう。ビジョンでは少しだけ減らし、実行計画で大きく減らすとなっているが、ビジョンでの削減量が少ないのではないだろうか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	ビジョンは方向性という意味の目標であり、明確な数値目標は設定していない。
オブザーバー	概要版P. 3、プロジェクト1。普及啓発資料の作成によって、削減効果が生じるように記載されているので、文章を正確に記載されてはどうか。
J 委 員	おおまかにどの程度減らすかを考えた上で、ビジョンやプロジェクトを出さなければ、少しだけしか減らさないのであれば、あまり意味がないのではないだろうか。
B 委 員	このビジョンを、環境学習に使うのであれば意味があるのではないだろうか。普及啓発資料であれば、少し足りない。このビジョンのP. 3～P. 5は肝であり、市がこれまで取り組まれてきたことが分かるP. 5の表など活用してはどうか。太陽光発電の市内の実績によって、より一層普及が進むのではないだろうか。
事 務 局	普及啓発も含め、P. 28～33まで、具体的な新エネルギー導入のイメージを示している。
オブザーバー	橋や下水処理場が地図にプロットされているのはなぜか。
事 務 局	賦存量や利用可能量を検討する際に具体的な箇所として挙げた施設である。
オブザーバー	P. 7を見た段階では、それは気づかない。そうであれば、前段で掲載されている市の新エネルギー・省エネルギー設備導入実績などをプロットするのが良いのではないだろうか。
J 委 員	プロジェクトの名前は、とても大切である。現状のプロジェクトの名前はとても堅い。普及啓発ということを考えれば、公募するなどして、親しみやすいものにしても良いのではないか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
D 委 員	エキスポロードなどは公募したものであり、根付きやすい。
事 務 局	事業名は、補助金を活用しているため変えられない。ただ、プロジェクトの名前については、事業具体化の際、馴染みやすい名称としたい。
J 委 員	正式名称はこれで良いが、広報やPRする際に親しみやすいものがあつた方がよい。
委 員 長	環境教育に使われると考えた時に、有効数字が曖昧である。
I 委 員	P. 3 の市のこれまでの取り組みをもう少しPRし、さらにエネルギービジョンを作成し、6つのプロジェクトをやっていくというよう流れが見えてくると、茨木市としての取り組みが分かりやすく見えてくるのではないだろうか。つながっているように見えるとよい。
事 務 局	調査、方針、プロジェクトといったビジョンの流れは示している。
I 委 員	ビジョンで何が言いたいかをもう少し明確にするとよい。市民の参加型という意味で、この概要版は良いのだが、意識の高い方の参画意識が高まるようなものとしてはどうだろうか。
G 委 員	6つのプロジェクト全体では定量的には少ないが、ビジョンによって意識を高めるようなストーリーを前面に出してはどうか。6つのプロジェクトではエネルギー削減量が非常に少ないので、もっと頑張らなければならないというメッセージを持たせるというのはどうか。
F 委 員	前回までのビジョン(案)を公開し、市民の方からパブリックコメントをもらっている中で中身の大きな変更は難しいと思うが、まとめ方として、各委員からの意見を踏まえて、どう工夫してまとめるのかがこの段階では大切ではないか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
G 委 員	P.96の自由記述について、主な意見が掲載されていると思うが、記載していただいた方に誤解を生まないように配慮も必要である。
事 務 局	類似意見をまとめて、ここまで整理している。
F 委 員	ビジョンとは関係のないものもあったので、全部掲載する必要はないかと思う。
B 委 員	そのことを一文で挿入したり、回答いただいた件数を記述してはどうか。
I 委 員	P.25の通勤率について、分母と分子について教えていただきたい。
D 委 員	総従業員数に対するマイカー通勤者数ではないか。
事 務 局	その通りである。
オブザーバー	目標の部分で、5年後と10年後の2種類で使われているので分かりづらい。どちらかに統一する必要がある。
J 委 員	P.56のマイカー通勤は運輸部門に属するのか。310T Jは非常に大きい。しかし、実際に効果的な方策を打つのは難しいのではないか。
事 務 局	想定される削減効果なので、実際の数値とは異なる。マイカー通勤の抑制は、事業所によって事情はあるため、抑制につながる啓発が取り組みの中心となる。
D 委 員	様々なマイカー通勤のパターンはある。ここでは議論できないが、市の重要な施策として、大きく見せるのもよい。
事 務 局	P.103にあるように、マイカー通勤の抑制に興味ある企業もある。そういうところから協力をいただけるよう取り組みたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
H 委 員	ビジョン作成の際、プロジェクトに関連する関連部局とのやり取りはあったか。
事 務 局	庁内委員会で提示し、ある程度の意見をもらっている。
H 委 員	茨木市として、部局の応援もあってやっていこうということか。
事 務 局	そうである。
G 委 員	マイカー通勤、8%削減すると書いている。1年間365日で考えると、月に2日間だけの割合で良くなる。特定の人が毎日減らすのではなく、特定の日に全ての人が減らすといった、柔軟い施策もあるのではないか。
委 員 長	算出方法については、事務局の方で精査していただきたい。
H 委 員	電気自動車やプラグインハイブリッド車の計算方法だが、1,800台とかなり導入することになる。数値的には良いのだが、少し心配である。また、大阪府事業の宣伝だが、充電インフラの予約システムの導入を検討している。近畿圏で導入を進めたいので、茨木市でも可能性があるならば、検討していただきたい。
A 委 員	地域特性があまりないとのことだが、市内でも色々な地域特性があるはずである。
委 員 長	アンケートでは地域特性があまり出なかったもので、今後は市内でも地域別で特性が出るような分析などが必要ではないだろうか。
B 委 員	P.64の資料2のタイトルについて、言葉が少し分かりづらい。「最近5年間の推移と平成2年の比較」はいかがか。
事 務 局	そのように修正する。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員 長	P.58の図の削減可能量はグラフだけ出されても分からない。だいたいこのような形で計算したという根拠がほしい。
A 委 員	重点プロジェクト実施期間の5年間はその後のためのものである、ということ、もう少し市民に伝わるように記述にしてみよう。
D 委 員	地球温暖化対策実行計画は、いつからスタートするか。
事 務 局	新年度以降だが、すぐではない。
D 委 員	予定は明記してはどうか。
事 務 局	検討する。
	2 日程調整
	第6回策定委員会の開催日時について
委 員 長	・ 3月22日(火) 15:00～17:00で確定
	閉 会